



令和8年度 大津町学校教育ビジョン

【基本理念】

夢を持ち 夢を育み 夢を叶える教育実践

～生きる力を身につけ、よき社会の形成者として未来を拓く子どもの育成～



第7次大津町振興総合計画
令和8年度 目標指標

- 確かな学力の育成
「大津町学力調査結果」
→全国平均値以上(小中学校とも)
- たくましく未来を切り拓く力の育成
「中3でCEFRのA1レベル以上を有すると思われる生徒の割合」
→60.0%
- 「中1及び中2で英語の勉強が好きな生徒の割合」→75.0%
- 豊かな心の育成
「思いやり」を評価する心理検査における全国偏差値(小6)
→50%

大津版「熊本の学び」の創造

学びに向かう力と人間

未来の創り手となるための資質・能力の育成と学習評価の充実

「学び」の活用力

思考力・判断力・表現力等

大津町「三つの約束」

- 1.あいさつをする
- 2.時間を守る
- 3.人の話を聞く

- 健やかな体の育成と健康の増進
「食育指導の実施」→46回
「学校授業以外で週4回以上運動している割合(小6)」→50%
- 家庭教育力の向上
「『三つの約束』の実践状況評価」
→3.30

社会に開かれた教育課程(「学び」と「暮らし」のリンク化)

家庭教育

1 基本的な生活習慣の形成

○基本的な生活習慣の形成
「スマホの利用ルール」が守れている中学3年生
↓50%

大津町「三つの約束」
・早寝・早起き・朝ごはん
・携帯・スマホのルールづくり
・家庭で高い情報リテラシー

2 家庭教育力の向上

○家庭教育力の向上
「くまもと『親の学び』プログラム」
「親の学び」プログラム参加者数
↓40人

「親の学び」プログラムの推進
・「第1期後(子)いきいき読書」の推進
・大津町「育ちのステップ」の活用
・大津町第五女子児童読書活動推進計画の推進

個別最適な学びと協働的な学びの実現

情報発信・相互連携強化

確かな学力

・基礎的・基本的事項の定着
・学力向上に向けた検証改善サイクルの確立と授業改善の推進・小中連携による英語力向上・ICT教材の活用による個別最適な学びの充実
・読解力の向上
・言語活動の充実による読み取り及び表現力の育成
・読書活動とNIEの推進
「主体的・対話的で深い学び」の実現
・課題設定と振り返りの充実による主体的な学びの推進
・校内研修の充実による授業力向上(学力向上対策実践報告書)

豊かな心

・いじめ、不登校等の未然防止と組織的対応の充実
・安心して過ごせる居場所づくりの推進
・「愛の123運動+1」による早期発見と初期対応の徹底
・特別活動の充実
・協働的な活動を通じた人間関係形成力の育成
・自己有用感と自己肯定感の育成
・道徳教育の推進
・「考え、議論する道徳」の実現
・多様性を尊重し、認め合う心の育成

健やかな体

・保健教育・食育の充実
・熱中症予防の理解と行動の定着
・う歯治療率の向上と口腔健康の推進
・基本的な生活習慣と食習慣の形成
・安全教育の充実・安全管理の徹底
・危険回避能力と安全意識の育成
・学校防災体制の強化(実践的避難訓練)
・情報モラルを含む情報リテラシーの推進
・学校体育の充実及びスポーツ活動の推進
・体育、保健体育の授業の充実
・部活動の地域展開の推進

カリキュラム・マネジメントの実施

情報発信・相互連携強化

社会教育

1 コミュニティ・スクールの推進

- ・学校運営協議会の機能強化
- ・五者連携と役割の明確化
- ・学校評価の活用による改善

地域とともにある学校づくり

一体的に推進

学校を核とした地域づくり

- 2 地域学校協働活動の推進
・4つの柱を踏まえた活動内容の充実と体系化
・協働活動推進員を核とした人材の確保・育成・活用
・地域未来塾等の充実
- 3 伝統と文化を尊重する地域学習の推進
・地域資源を活用した学習の充実

○地域学校協働活動の推進
地域における協働活動の実施
→18件

幼児教育(就学前教育)の充実

- 幼児教育と学校教育の接続強化
□接続期カリキュラム、連携カリキュラム及び架け橋期カリキュラムの実践及び改善
□「育ちのステップ」の周知と活用
- 中学校区連携推進協議会の活性化
□目標連携、行動連携、情報連携の充実

人権教育の充実

- 人権教育の組織的推進体制の強化
□校長のリーダーシップのもと、全校的な共通理解と組織的実践の徹底
□人権教育主任を中心とした体制の明確化と、いじめ・不登校等における他機関との連携強化
- 部落差別をはじめとする様々な人権問題への基本的認識の深化と多様性を踏まえた計画的研修の充実、主体的行動につなぐ指導力の向上

特別支援教育の充実

- 自立と社会参加を見据えた指導・支援の充実
- インクルーシブ教育システムの構築に向けた交流及び共同学習の充実
- 多様な教育的ニーズに応じた通常の学級における支援の充実
□特別支援教育コーディネーターを核とした校内支援体制の強化及び関係機関との連携

教育の情報化の推進

- ICT活用指導力の向上
- 情報リテラシーの育成

関係機関との連携

キャリア教育の推進

- 「キャリア・パスポート」の効果的な活用
- 特別活動の充実

○教育環境の整備・充実(学校における働き方改革の推進)
「1か月の時間外在校等の時間が45時間以内の教職員」
→小学校:100% 中学校:100%

○多様な教育ニーズへの対応(誰一人取り残さない教育の充実)
「不登校児童生徒が教職員以外に関係機関から支援を受けている割合」「日本語指導を必要とする児童生徒のうち実際に指導を受けている割合」
→100%

社会の変化に対応した教育の推進

- 持続可能な開発のための教育(ESD)
- 防災教育
- 英語教育・国際理解教育
- 主権者教育・消費者教育
- STEAM教育 等